

基礎看護学(健康科学領域)

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	3人
病院教授	0人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	1人 (0人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	0人
合 計	4人

1-2 教員の異動状況

渡邊 泰秀 (教授)(H14.6.1～現職)
三浦 克敏 (教授)(H18.4.1～現職)
永田 年 (教授)(H18.4.1～現職)
山下 寛奈 (助教)(H17.10.1～H19.3.31 助手; H19.4.1～現職)

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1)研究・開発等のテーマ名 超音波顕微鏡を用いた病態の解明
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略 組織を通過する音速が硬さと相関することを利用して、組織を画像化する技術である。光学顕微鏡とは異なる原理を用いており、組織の弾性や硬度を知ることができる。酵素消化法を加えて、蛋白の種類、濃度、修飾の程度を比較することができる。老化、糖尿病、線維化に応用して、新たな診断方法の開発や病態の解明を目指したい。
2	(1)研究・開発等のテーマ名 細胞内寄生菌に対する効率的T細胞誘導型ワクチンの開発
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略 結核菌等の細胞内寄生細菌に対する感染防御には、細胞性免疫、すなわち1型ヘルパーT細胞(Th1)と細胞傷害性T細胞(CTL)が重要である。細胞性免疫の誘導には生ワクチンが有効であることが知られているが、それに代わり、DNAワクチンが、安全で効率のよい、特異的T細胞の誘導に有効である。これまで細胞内寄生菌を標的とした種々のDNAワクチンを構築してきたが、現在、より効率良く抗原特異的T細胞を誘導できる新規ワクチンの構築を検討している。

3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	7編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	16.402
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4)著書数(うち和文のもの)	1編 (0編)
(5)症例報告数(うち和文のもの)	1編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Miura K, Katoh H: Structural and Histochemical Alterations in the Aortic Valves of Elderly Patients: A Comparative Study of Aortic Stenosis, Aortic Regurgitation, and Normal Valves, BioMed Research International, 2016.	2.134
2.	Miura K, Egawa Y, Moriki T: Aortic stenosis and regurgitation of the elderly follow different processes of collagen ageing, Virchows Arch, 469(suppl 1):S67-68, 2016.	2.627
3.	Tashiro M, Watanabe Y, Yamakawa T, Yamashita K, Kita S, Iwamoto T, Kimura J: Suppressive effect of carvedilol on $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchange current in guinea-pig cardiac ventricular cell. Pharmacol. 99(1-2), 40-47, 2017.	1.533
4.	Yamashita K, Watanabe Y, Kita S, Iwamoto T, Kimura J: Inhibitory effect of YM-244769, a novel $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchange inhibitor on $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchanger current in guinea pig cardiac ventricular myocytes. Naunyn-Schmiedeberg's Arch Pharmacol. 389(11), 1205-1214, 2016.	2.376

論文数(A)小計 4 うち和文 0 IF小計 8.670

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Wei JZ, Watanabe Y, Takeuchi K, Yamashita K, Tashiro M, Kita S, Iwamoto T, Watanabe H, Kimura J: Nicorandil stimulates a $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchanger by activating guanylate cyclase in guinea pig cardiac myocytes. Pflugers Arch. 468(4), 693-703, 2016.	3.654

2.	Oishi S, Takano S, Tani S, Iwaizumi M, Hamaya Y, Takagaki K, Nagata T, Seto S, Horii T, Osawa S, Miyajima H, Sigimoto K: M2 polarization of murine peritoneal macrophages induces regulatory cytokine production and suppresses T-cell proliferation. Immunology, 149(3), 320-328, 2016.	4.078
----	--	-------

論文数(B)小計 2 うち和文 0 IF小計 7.732

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Kuroda Y, Yuasa S, Watanabe Y, Ito S, Egashira T, Seki T, Hattori T, Ohno S, Kodaira M, Suzuki T, Hashimoto H, Okata S, Tanaka A, Aizawa Y, Murata M, Aiba T, Makita N, Furukawa T, Shimizu W, Kodama I, Ogawa S, Kokubun N, Horigome H, Horie M, Kamiya K, Fukuda K: Flecainide ameliorates arrhythmogenicity through NCX flux in Andersen-Tawil syndrome-iPS cell-derived cardiomyocytes. Biochemistry and Biophysics Reports. 9, 245-256, 2017.	0.000

論文数(C)小計 1 うち和文 0 IF小計 0.000

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	Miura K: Application of Scanning Acoustic Microscopy to Pathological Diagnosis, InTeck, Chapter 15, 381-403, 2016, DOI: 10.5772/63405	

著書数(A)小計 1 うち和文 0

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

著書数(C)小計 0 うち和文 0

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

症例報告数(A)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

症例報告数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	江河勇樹, 森木利昭, 三浦克敏: シェーグレン症候群に合併した肺軽鎖沈着症の1例, 診断病理, 33(2), 178-182, 2016.	0.000

症例報告数(C)小計 1 うち和文 0 IF小計 0.000

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1)科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	4件	270万円
(2)厚生労働科学研究費	0件	0万円
(3)日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0件	0万円
(4)科学技術振興機構(JST)による研究助成	0件	0万円
(5)他政府機関による研究助成	0件	0万円
(6)財団助成金	0件	0万円
(7)受託研究または共同研究	0件	0万円
(8)奨学寄附金	0件	0万円

(1)科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	三浦克敏、基盤研究(C)、超音波顕微鏡を用いて組織の加齢性変化を描出する、平成27年度～平成29年度、代表	150万円
2.	渡邊泰秀、基盤研究(B)、心筋イオン輸送体の遺伝子異常に起因する致死性不整脈の新規病態メカニズムの解明、平成27年度～平成29年度、分担、(研究代表者)長崎大学医歯薬学総合研究科(医学系)教授・蒔田直昌	10万円
3.	永田 年、基盤研究(C)、インフルエンザ菌の気道上皮細胞内寄生と細胞傷害性T細胞応答の解析、平成26年度～平成28年度、代表	100万円
4.	永田 年、基盤研究(C)、生分解性ナノ粒子を用いた結核感染症に対する新規樹状細胞ワクチンの開発、平成27年度～平成29年度、分担、(研究代表者)浜松医科大学 第二内科学講座教授・須田隆文	10万円

6 大型プロジェクトの代表、総括

7 学会活動

	(1)国際学会	(2)国内学会
1)基調講演・招待講演回数	0件	0件
2)シンポジウム発表数	1件	0件
3)学会座長回数	2件	3件
4)学会開催回数	0件	0件
5)学会役員等回数	0件	3件
6)一般演題発表数	2件	

(1)国際学会等開催・参加

2)国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1.	Miura K: Aortic stenosis and regurgitation of the elderly follow different processes of collagen ageing, ヨーロッパ病理学会, ケルン(ドイツ)、2016年9月
----	--

3)国際学会・会議等での座長

1.	三浦克敏、慶北-浜松合同医学シンポジウム、浜松医大、2016年12月
2.	永田 年、慶北-浜松合同医学シンポジウム、浜松医大、2016年12月

6-2)ポスター発表

1.	Watanabe Y, Kimura J. Blocking effect of carvedilol, a be-ta blocker on Na ⁺ /Ca ²⁺ exchange current in isolated cardiac ventricular myocytes of guinea pig. Experimental Biology 2014, San Diego, California, 2-6 Apr, 2016.
----	---

- Watanabe Y, Wei JZ, Takeuchi K, Yamashita K, Tashiro M, Kita S, Iwamoto T, Watanabe H, Kimura J. Nicorandil stimulates $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchanger function by activating guanylate cyclase in guinea pig cardiac myocytes. Ca signal Meeting, Honolulu, Hawaii, 7-9 Apr, 2016.

(2)国内学会の開催・参加

3)座長をした学会名

1. 三浦克敏、第105回日本病理学会総会、仙台、2016年11月
2. 渡邊泰秀、第46回日本心脈管作動物質学会、沖縄、2017年2月
3. 渡邊泰秀、第135回日本薬理学会関東部会、浜松、2016年10月

5)役職についている国内学会名とその役割

1. 三浦克敏、日本病理学会評議員
2. 渡邊泰秀、日本薬理学会評議員
3. 渡邊泰秀、日本生理学会評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	4件	0件

(1)外国の学術雑誌の編集

1. Editorial Board, Scientific Reports
2. Editorial Board, Journal of Vaccines & Vaccination
3. Editorial Board, vaccines
4. Editorial Board, Austin Journal of Infectious Diseases

(3)国内外の英文雑誌のレフリー

1. Scientific Reports (6回)
2. Naunyn-Shmiedeberg's Arch Pharmacol (1回)
3. Journal of Pharmacological Science (2回)
4. Microbiology and Immunology (3回)
5. Journal of Immune Research (2回)
6. vaccines (1回)
7. molecules (1回)
8. Immunology and Immunogenetics Insights (1回)
9. British Microbiology Research Journal (2回)
10. World Journal Series (12回)

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0件
(2)国内共同研究	2件
(3)学内共同研究	2件

(2)国内共同研究

1. 名古屋大学医学部救急医療
2. 富山大学医学部分子薬理

(3)学内共同研究

1. 浜松医科大学第三内科
2. 浜松医科大学呼吸器内科

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞

12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

13 その他の業績